

31 Asking about responsibilities (1) 義務・責任について尋ねる (1)

(1) ハインリックの質問を聞いて、圭がなんと答えたかを選びましょう。

1 Should I bring something? (何か持っていくべきでしょうか?)

1 Yes. (はい)

2 No. (いいえ)

正解 1 Yes.

解説 会話で上記のハインリックの質問 に対して圭は、 “you should probably bring something small-like some sweets.” (なんかちょっとしたもの、たとえばお菓子とか持ってたらいいいと思うよ。)と答えていますので、正解は Yes. になります。

“should”は「～した方が良い」という軽い意味合いと、「～すべき」という意味があり、“should”を強く言うかどうかによって区別しますが、「～した方が良い」という軽い意味合いの方がよく使われます。この会話では“probably”(50%～90%程度の話し手の確信度を示す「多分」という言葉。“should”とセットで使われることが多い)があるため、「持ってたらいいいと思うよ」という控え目な助言になっています。

“Should I ~?”と聞かれた場合 “Yes.”で答えれば回答者は質問されたことを行なうように強く勧めていることになりますが、“No.”と答えると「そういう必要は無いよ」という意味になります。

2 When I go into the house, what do I have to say? (家に入る時、なんて言うの?)

1 “Hajimemashite”. (はじめまして)

2 “Ojamashimasu”. (おじゃまします)

正解 2 “Ojamashimasu”. (おじゃまします)

解説 会話で圭は “When you go into the house, you have to say ‘ojamashimasu’.” (おじゃまします)と言っていますので、答えは2になります。

“have to”は「～しなければならない」という意味で、義務・責任を表す表現です。ここではハインリックが、家に入る時何と言うことが自分にとって義務であるか尋ねています。“need to”で言い換えることもできます。

これに対する答えは、“Yes” “No”と簡単に答えることもできますし、“Yes, you should.” (やるべきだよ。)、 “Yes, you need to.” (やる必要があるね。)、 “Yes, you have to.” (やらなきゃいけないよ。)、あるいは “No, you don’t have to.” (やらなくていいよ。)、 “No, you don’t need to.” (やる必要ないよ。)など言うことができます。

3 **When I meet his parents, what do I need to say?** (彼のご両親に会ったらなんて言うの?)

- 1 **"Hajimemashite"** (はじめまして)
- 2 **"Ojamashimasu".*** (おじゃまします)

正解 1 **"Hajimemashite"** (はじめまして)

解説 会話で圭は "when you meet his parents, you have to say 'hajimemashite'." (彼のご両親にあったら「はじめまして」って言わないと。)と言っていますので、答えは1になります。

"need to"は「～する必要がある」という意味で、やはり義務・責任を表す表現です。ここではハインリックが「彼のご両親に会ったら何という必要があるのか?」と聞いています。"have to"で言い換えることもできます。

4 **Do I have to use chopsticks?** (お箸を使わないとだめかなあ?)

- 1 **No.** (いいえ)
- 2 **Yes.** (はい)

正解 2 **Yes.** (はい)

解説 会話で圭は上記のハインリックの質問に対して "You should try to use them." (使おうとしたほうがいいよ。)と答えていますので、正解はBになります。

"have to"は「～しなければならない」という意味で、義務・責任を表す表現です。語調によっては軽く「～した方が良いの?」くらいの意味になります。ここではハインリックが、(自分はお箸をうまく使うことが出来ないが)お箸を使うことが自分にとって義務であるか、ということを尋ねています。"need to"で言い換えることもできます。

(2) ハインリックの他の質問にも答えてみましょう。

1 **When I go into the house, do I have to take off my shoes?** (家に入る時、くつをぬぐの?)

- 1 **Yes.** (はい)
- 2 **No.** (いいえ)

正解 1 **Yes.** (はい)

解説 日本では家の中でくつをぬぐのは当たり前ですが、欧米でははいたままでは普通です。その違いを知っていても経験の無かったハインリックは確認のためこう質問してきたようです。

これに対する答えは、“Yes.” “No.” と簡単に答えることもできますし、“Yes, you should.” (やるべきだよ。)、 “Yes, you need to.” (やる必要があるね。)、 “Yes, you have to.” (やらなきゃいけないよ。)、あるいは “No, you don’t have to.” (やらなくていいよ。)、 “No, you don’t need to.” (やる必要ないよ。)などと言うことができます。

“take off”は「(衣服等を)脱ぐ」という意味です。脱ぐものを具体的に言う場合は、“take off my shoes”、つまり take off + 名詞 (私のくつ) という語順、または “take my shoes off”、つまり take + 名詞 + off という語順のどちらでもかまいませんが、脱ぐものを代名詞で表す場合は “take them off” のように必ず take + 代名詞 + off という語順になります。くつは2つで一組ですから、代名詞にした場合は複数形の them を使います。

2 **Should I bow to his parents?** (彼のご両親におじぎをするべきでしょうか?)

1 **Yes.** (はい)

2 **No.** (いいえ)

正解例 1 1 **Yes.** (はい)

正解例 2 2 **No.** (いいえ)

解説 会話ではおじぎについての質問はありませんでした。そこで答えはどちらでもかまいません。

日本では挨拶をするときおじぎをすることが一般的ですが、英語圏ではおじぎは一般的な文化ではありません。こういった質問をされたら、おじぎをした方が相手である日本人家庭に好印象を与えられる場合、又は質問をしてきた側が日本の文化に対して積極的な興味を持っている場合は、「おじぎをすること」を勧めてみるのも良いでしょう。そうでなければ、質問してきた人の文化で挨拶しても問題はありません。

“should”は「～した方が良い」という軽い意味合いと、「～するべき」という意味があり、“should”を強く言うかどうかによって区別しますが、「～した方が良い」という軽い意味合いの方がよく使われます。“should”は「～した方が良い」という軽い意味合いと、「～するべき」という意味があり、“should”を強く言うかどうかによって区別しますが、「～した方が良い」という軽い意味合いの方がよく使われます。この会話では“probably” (50%～90%程度の話し手の確信度を示す「多分」という言葉。“should”とセットで使われることが多い)があるため、「持ってたらいいと思うよ」という控え目な助言になっています。

ここでの質問は、「彼の両親におじぎ、した方が良いかなあ?」というくらいの意味です。

“Should I~?”と聞かれた場合 “Yes.” で答えれば回答者は質問されたことを行なうように強く勧めていることになりますが、“No.”と答えると「そういう必要は無いよ」という意味になります。

3 After dinner, what do I have to say? (夕食の後、なんて言えばいいの?)

1 "Ojamashimashita". (おじゃましました)

2 "Gochisousamadeshita". (ごちそうさまでした)

正解 2 "Gochisousamadeshita". (ごちそうさまでした)

解説 ご飯を食べ終わったあとに言うのは「ごちそうさまでした」ですので、答えは2になります。

質問(2)の1のように“Do I have to~?”を使って質問すると、“Yes”が“No”で回答することになりますが、その前に「何 (what)」「どこ (where)」「なぜ (why)」「いつ (when)」「どれ (which)」「どのように (how)」を付けて質問すると、内容を尋ねる質問になります。

“Why do I have to say ‘Gochisousamadeshita’?” (なぜ「ごちそうさまでした」と言うべきなの?)

“When do I have to say ‘Gochisousamadeshita’?” (いつ「ごちそうさまでした」と言うべきなの?)

“Which do I have to say, ‘Gochisousamadeshita’ or ‘Ojamashimashita’?” (「ごちそうさまでした」と「おじゃましました」、どちらを言うべきなの?)

この質問では、“What (何)”が使われていますので、ハインリックは「何と言うべきか?」と尋ねています。そこで、選択肢のように、具体的な答えを出して返答します。

“have to”は「～しなければならない」という意味で、義務・責任を表す表現です。語調によっては軽く「～した方が良いの?」くらいの意味になります。ここではハインリックが、夕食の後、「何と言った方が良いの?」、ということを探しています。“need to”で言い換えることもできます。

4 When I leave, what do I need to say? (おいとます時、なんて言えばいいの?)

1 "Ojamashimashita". (おじゃましました)

2 "Konnichiwa". (こんにちは)

正解 1 "Ojamashimashita". (いいえ)

解説 おいとます (= その場を去る) 時に言うのは「おじゃましました」ですので、答えは1になります。

この質問では、質問(2)の3と同じく、“What (何)”という具体的な内容を尋ねる疑問詞をつけて、what do I need to say? 「何と言う必要があるか」ときく疑問文になっています。

“need to”は「～する必要がある」という意味で、“need to”は「～する必要がある」という意味で、やはり義務・責任を表す表現です。ここではハインリックが「彼のご両親に会ったら何と言う必要があるの?」と聞いています。

“have to”で言い換えることもできます。